

## 「学ぶ心を高める」

校長 石井 寛

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業を余儀なくされた3月。例年ならば、卒業や進級にむけ、各学級で総まとめを行う時期ですが、今年は叶いません。致し方ないと感じつつも、何かやり切れない思いもあります。このような形で令和元年度が終了してしまうとは、思ってもいませんでした。

あまり明るい話題が発せられない今だからこそ、あおぎりっ子たちの活躍ぶりを紹介させてください。休業前の2月には、吹奏楽部の、「さよならコンサート」が開催され、1年間の活動の成果を多くの方々にご覧いただきました。各学年の授業参観でも、子どもたちの1年間の成長を感じていただけたのではないかと思います。また、大宮区役所より、環境美化に長年取り組んでいる「おは活」を評価していただき、感謝状をいただきました。さらに、虫歯予防の取組が評価され、埼玉県の「歯科優良校」に選ばれました。子どもたちの頑張りはもちろんですが、保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力の賜物であると感じています。

さて、本年度を振り返って感じたことについて、最終号の場を借りて、述べさせていただきます。

本校では、「自分から進んで学び、活動する児童の育成」を目指し、研究を進めてきました。研究を進める中で、自分から課題を解こうと意欲的に頑張っている子、また友だちと一緒に考えを深めていく子など、自分の考えを出し、互いに高め合っている様子が伺えるようになってきました。学習意欲が高まっていくにつれ、「できた」「わかった」という実感をもてる子が多くなったように感じます。

孔子の教え（論語）に「憤せずんば啓せず、非せずんば発せず」という言葉があります。「自分で疑問を解決しようと発憤する者でなければ、教えを授けても無駄である。」という内容の教えです。この教えからも、学びがしっかりと定着していくには、学ぼうとする心の高まりが必要なことがわかります。子どもたちに無理やり教え込んでしまっても、また逆に、放っておいてしまっても学びはうまく育っていきません。大切なことは、単に知識・技能の習得に終始するのではなく、学ぼうとする向上心をいかに高めていくかであり、その心の盛り上がりがないければ、なかなか学びが進まず、教え導くことは難しいということになるのです。つまり、自分から進んで学ぼう、活動しようとする児童を育成することこそが、子どもたちのもっているポテンシャルを伸ばすことにつながるのです。

いかに、子どもたちが「本気」になるように、どのように心を高めていくか。そのためにどのような指導・支援が必要なのか。いくつもの取組を実践してきましたが、明確な答えには、なかなかたどり着けません。子どもたち一人ひとりの個性に違いがあるので、当然そのアプローチの仕方も千差万別です。試行錯誤を繰り返しながら、より良い指導法をこれからも模索していきたいと思えます。

最後になりましたが、保護者の皆様、並びに地域の皆様方には、令和元年度も大宮小の教育活動に、多大なるご協力をいただきました。誠にありがとうございました。令和2年度もどうぞよろしく願いいたします。

新年度がどのようなスタートになるか、現時点では、はっきりしていません。これまでと同様に、学校安心メールで、教育委員会からお知らせが届くことがあるかもしれません。学校からも学校安心メールやホームページで、随時ご案内し、皆様に混乱が生じないよう努めてまいります。

### 《お礼》

荷物の引き取りにご協力くださり、誠にありがとうございました。  
引き続き、児童の見守りをよろしく願いいたします。